

潰瘍性大腸炎治療例の予後 QoL の観点から（prospective study）

研究分担者 杉田昭 横浜市立市民病院 臨床研究部 部長

研究要旨：

潰瘍性大腸炎に対して種々の内科治療、外科治療が行われ、治療成績が報告されているが、本症の治療の目的である QoL の改善についての客観的な分析は少ない。QoL の観点から各種内科治療、外科治療の位置づけを明らかにして本症に対する治療法の選択に関する治療指針を作成することが重要と考えられる。そのためには内科、外科治療後の QoL を分析する適正な QoL 評価法を選択、作成し、各種治療法の評価を行う必要がある。

本プロジェクトは、QoL 評価法の決定し、その後、各施設で前向きに各種内科治療、各種外科治療、内科治療と外科治療の比較などを行い、治療指針の作成に活用することを目的としている。

QoL 評価法として、SF36、IBDQ、Modified FIQL を選定し、これらに疾患特異性尺度を加えた QoL 調査票を作成することとし、調査票の作成後に各種治療の横断研究を行い、その結果に基づいて縦断研究を行って QoL の観点からの治療法を評価する予定である。

共同研究者

二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）
池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患講座
外科部門）
福島浩平（東北大学分子病態外科）
畑啓介（東京大学大腸肛門外科）
舟山裕士（仙台赤十字病院外科）
根津理一郎（西宮市立中央病院外科）
藤井久男（吉田病院）
板橋道朗（東京女子医科大学消化器、一般外科）
小金井一隆（横浜市民病院炎症性腸疾患科）
篠崎大（東京医科学研究所腫瘍外科）
水島恒和（大阪大学消化器外科）
荒木俊光（三重大学消化管、小児外科）
松岡克善（東京医科歯科大学消化器内科）
平井郁仁（福岡大学筑紫病院
炎症性腸疾患センター）
中村志郎（兵庫医科大学炎症性腸疾患講座内科部門）

A. 研究目的

潰瘍性大腸炎に対して種々の内科治療、外科治療が行われ、成績が報告されているが、本症の治療の目的である QoL の改善についての客観的な分析は少ない。QoL の観点から各種内科治療、外科治療の位置づけを明らかにして本症に対する治療法の選択に関する治療指針を作成することが重要と考えられる。そのためには内科、外科治療後の QoL を分析する適正な QoL 評価法を選択、作成し、各種治療法の評価を行う必要がある。

本プロジェクトは、QoL 評価法の決定し、その後、各施設で前向きに各種内科治療、各種外科治療、内科治療と外科治療の比較などを行い、治療指針の作成に活用することを目的としている。

B. 研究方法

潰瘍性大腸炎に対する内科治療、外科治療後の QoL を適正に判定する QoL 尺度（包括的 QoL 尺度と疾患特異性 QoL 尺度を含む）を決定し、評価法

を設定する。その後、それらを用いて参加施設の症例に対して QoL 評価を前向きに行い、QoL の観点から各種内科治療、各種外科治療、内科治療と外科治療の比較などを行い、QoL 改善の観点から本症に対する治療指針の作成に活用する。

(倫理面への配慮)

参加施設の症例を匿名化して結果を集積、分析することとしている。

C. 研究成果

包括的 QOL 尺度として SF36、炎症性腸疾患に対して用いられる疾患特異性尺度として IBDQ、排便機能に関しては Modified FIQL(fecal incontinence quality of life scale)(1)を用いることとし、これらに疾患特異性尺度(排便回数、人工肛門の有無など)を加えた QOL 調査表を作成することとした(表 - 1)。

QOL 調査票の完成後に評価対象症例に対し、横断研究を行い、その結果に基づいて縦断研究を行う予定である(表 - 2)。

D. 考察

潰瘍性大腸炎に対する内科治療、外科治療例の QoL を客観的に評価し、その結果に基づいて治療指針の検討を行うことが治療による QOL 向上に必要である。

E. 結論

潰瘍性大腸炎に対する各種治療例に対して QoL 尺度を決定し、各施設で前向きに症例での調査を行う予定である。

F. 健康機関情報

特になし

G. 研究発表

今後予定

H. 知的財産権の出願、登録状況

特になし

I. 文献

(1)Hashimoto H, Schiokawa H, Funahashi K, et al: Development and validation of a modified fecal continence quality of life scale for Japanese patients after intersphincteric resection for very low rectal cancer. J Gastroenterol 2010, 45:928-935

表-1. 使用するQoL尺度

- ✓ SF36 :包括的QOL指標 (36項目)
 - ✓ IBDQ :IBD患者のQOL指標 (32項目)
 - ✓ Modified FIQL(fecal incontinence quality of life scale)
:便の漏れについての14項目(J Gastroenterol, 2010)
 - ✓ 疾患特性尺度:排便回数、手術例では人工肛門の有無など
-

表-2. 評価対象症例

1) 横断研究

各種治療のQoLを評価、比較

内科、外科治療、測定時期もランダムとする。
各患者の背景因子の調査

2) 縦断研究

各種治療のQoL測定、治療の比較
